3月18日皆既日食　（ダバオ）

金沢星の会　小池田洋子

3月18日午前5時廊下の足音で目がさめる。曇り。別のグループでここに来ていた松枝さんたち数人が、ジープでジェネラルサントスに向かって出かけて行った。イギリス隊もすでに出発してしまったとのこと。

午前6時、大阪電気科学館の黒田さんをはじめとする一行38名は朝食をすませホテルの庭に機材をセットする。曇り。5才から70才までのメンバーである。ドイツとスイス隊の一部は船で、南にある小さな島へ出かけて行った。

ホテルに残ったのは、私達とスカイウオッチャーの数人とドイツ人たちの一部であった。第一接触は、雲の中で始まっていた。8時10分、雲間から2割ほど欠けた太陽が顔をのぞかせた。10分おきの部分食の撮影予定も、露出も、もうメタメタとにかく太陽がちょっとでも出ればシャッターを切る。あせりと不安で心の中に冷たい風が吹く。そう言えば、太陽がでていないので暑くない。日食でなければ、やしの木陰で昼寝でもしておれば最高にいい気分なのだが。「左手の島の上の空が晴れてくるといいんですがね。」縦横大きい土地の人が、観測風景を見にきて教えてくれた。そこの空が心持ち明るくなった。晴れるかもしれない。三日月型に欠けた太陽が顔のぞかせた。あちこちでシャッターの音がきこえる。望遠鏡に付けたカメラのファインダーなので、すこしばかりの雲は気にならない。雲の切れ目がではじめた。

「あの青空の所が来た時に、皆既になればいいんですがね。あと、3分ですよ。」BPMのシグナル（中国の標準電波）が入感している。

「あぁ！」次の瞬間、視野の中の細い爪のような太陽が、ぷつぷつと切れた。ベリービーズだ。そして、周囲でざわめきが起こった。

私は視野のなかで鮮やかなプロミネンスを見た。二つ並んで太陽の縁からにゅと出ていた。「プロミネンスがきれいですよ」声が聞こえたかと思う間もなく、あたりは闇につつまれた感じで何も見えなくなった。コロナは雲の上です。コロナは雲の上です。

辺りが少し明るくなって皆既がおわったことが感じられた。終りました。しかし、一瞬のプロミネンスの色だけが脳裏に残った。その色は、このホテルの庭を彩っているブーゲンビリアの色だったのです。後半の部分食も適当にながめて、機材の後かたづけにかかった。記念写真に集まったメンバーの顔も心持ちさえなかった。昼食後、松枝さんが帰ってきて、ジェネラルサントスに向かう途中検問に3回かかったことや晴れ間を捜して走り回ったことを話してくれた。その顔は、輝いていた。そして、コロナの形を紙に書いてみせてくれた。ホテル以外の所へ行った人たちは、多少なりともコロナが見られたようだった。

これまで7回の皆既日食中観測出来なかったのは1回だけで、今度も一番条件の良い所を選んだはずなのに、その当日の午前だけが曇るという皮肉な結果になってしまった。その結果今回の見え方を0．2とすれば、8回中6．2ということになる。次の機会に期待をつなぐことにする。

旅の後半、マゼランゆかりの島セブへ寄った。そこで、マゼランも見たであろう素晴らしい冬の銀河から南十字、そして夏の銀河へと続く星空を楽しんだ。